

介護を身近に感じて

東奥学園高生、小中学生向け冊子づくり



大学生(奥左)と福祉リーフレットのアイデアを話し合う生徒たち

青 森

青森市の東奥学園高校福祉科3年生24人が本年度、小中学生に向けて福祉や介護の魅力を発信するリーフレットづくりに取り組んでいる。20日、共

同で制作する日本福祉大学(愛知県)の社会福祉学部3、4年生6人が同校を訪問。子どもたちに福祉の在り方を分かりやすく伝えるためのアイデアを出し合った。(野村遥)

日本福祉大(愛知)の学生協力

リーフレットづくりは、高齢化が進む中で小中学生に介護を身近に感じてもらうとともに、作成を通して生徒たち自身の福祉への理解を系統的に深めようと、同校初の試み。福祉教員などを養成する同大学の協力を得て実現した。

この日は福祉、高齢者、障害、ユニバーサルデザイン、移動・移乗のテーマごとに班に分かれ、リーフレットに盛り込む内容を話し合った。「障害」を担当した班は、視覚、聴覚、身体に生じるそれぞれの障害の特徴や障害者のコミュニケーション方法、バリアフリーなどを紹介する方針を決定。大学生は「視覚障害者の見え方のイメージ画像を入れてみたら」「聴覚障害者が使う音声文字変換アプリは知ってる？」などと助言していた。

高木愛梨さんは「小中学生が分かりやすいよう専門用語を使わず、写真を多めに載せることにした。身近に障害がある人がいることを知ってほしい」と感想。高齢者の心身の特徴をまとめる班の木浪帝十(みづの)さんは「高齢者の言動の一つ一つに理由や個人差があることを知ってほしい。読んで福祉に興味を持ってもらえたら」と話した。

リーフレットはA4判のフルカラー8ページで、12月に完成予定。県内の小中学校で行う福祉・介護の出前授業などで教材としての活用を見込んでいる。